



 <p>山門</p>	<p>参道より一段高い寺の敷地の入口に立つ正門で、正面には「浮岳山」の山号額を掲げています。慶応元年（1865）の火災の際にも常香楼とともに被災をまぬがれ、現在、山内で一番古い建造物です。形式は、主柱を3.6m間隔に立てて扉を付け、後方に細い控え柱を立てた薬医門とよばれるものです。柱、梁、組物などの材はケヤキ。屋根は切妻の茅葺き。屋根裏板や垂木はスギで造られています。ケヤキ部分をベンガラで赤色に、スギ部分を黒で塗った、山内唯一の彩色された建物です。</p>
 <p>深大寺本堂</p>	<p>江戸時代の本堂が幕末の火災で焼失した後、本尊の阿弥陀如来像は、再建した庫裡に仮安置されていましたが、大正8年に今の本堂が完成しました。旧本堂は寄棟造りの茅葺き屋根でしたが、再建本堂は入母屋造りの棧瓦葺きに変わりました。正面十間、側面八間（一間は1.8m）という規模は、昔より少し大きくなっているようです。外側を雨戸付きの硝子窓とし、腰を下見板張りとする造りは昔から変わっていませんが、正面中央の上り口だけは、禅宗様の棧唐戸の引き戸になっています。</p>
 <p>釈迦堂 国宝 釈迦如来像</p>	<p>釈迦堂は山門を入れて左手の奥にあります。白鳳仏を安置する堂宇として昭和51年に新築されました。仏像を火災、盗難から守るため鉄筋コンクリート造りとし、湿気の多い土地であることを考慮して高床式に作られています。釈迦如来像(国宝)は やわらかな微笑みをたたえた、白鳳期(飛鳥時代後期)を代表する仏像で、東日本最古の国宝仏です。堂内には重文の旧梵鐘も安置されています。いずれもガラス越しに拝観できます。</p>
 <p>元三大師堂 慈恵大師像 (元三大師像)</p>	<p>慈恵大師(元三大師)像を安置する大師堂です。江戸時代の大師堂は、本堂の西南(新しい手水屋の在る辺り)に東向きに建っていましたが、幕末の火災で類焼したので、本堂西の崖地を削って造成した敷地に位置を移して再建されました。被災直後の慶応3年(1867)に、本堂より先に復興されたことは、厄除元三大師がいかにも多くの信者を集めていたかを物語っています。慈恵大師像(元三大師像 東京都指定有形文化財)像高が2メートル近くもあり、僧形の古像としては日本最大です。</p>
 <p>深大寺そば</p>	<p>「武蔵国の内いずれの地にも蕎麦を植えざることなけれどもその品、当所の産に及ぶものなしゆえに、世に深大寺蕎麦と称して、そのあじわい極めて絶品と称せり」江戸時代に編さんされた『新編武蔵風土記稿(しんぺんむさしふどきこう)江戸幕府官撰の地誌』に、すでに、「極めて絶品」と紹介されている深大寺そば。現在20を超える店舗が軒を連ね、「そば」だけでなく、そばまんじゅうなどそば粉を使った各店オリジナルメニューも充実しているようです。</p>
<p>その他 深大寺界隈の見どころ</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 都立神代植物公園(有料)：ばら園、つつじ園など307種以上の植物の種類ごとに分け、景色を眺めながら植物を楽しめます。 • 水生植物園：園内の一部は「深大寺城跡」。深大寺の裏山から湧き出た水が湿地帯になり木道などを整備して公開しています。 • 深大寺城跡：16世紀前半南関東の覇権を争う上杉氏と小田原北条氏との攻防、扇谷上杉氏が再興した戦国時代の城館跡です。 • 天神通り：調布駅中央口を出て北側に進み、旧甲州街道と甲州街道を繋ぐ道沿いにある天神通り商店会。名前のとおり、天神様(布多天神社)に通じる参道にあたる商店会です。ここはまた、「鬼太郎通り」の愛称で親しまれています。

ご感想をお聞かせください。



訪ねた日

令和 年 月 日

お名前：	様	年齢：	歳	電話番号：
ご住所：〒				

【弘済会使用欄】

修了確認印 